

防災教育・周知啓発ワーキンググループ 防災教育チーム (第2回) 議事要旨

1. 日時

令和3年1月28日(木) 14:00~15:30

2. 出席者

片田座長、畦地委員、江口委員、大木委員、加藤委員、橋爪委員、矢守委員
関係省庁〔内閣官房(国土強靱化推進室)、消防庁、文部科学省(総合教育政策局)、国土交通省(水管理・国土保全局)、気象庁、赤澤副大臣、内田官房審議官(防災担当)〕

3. 議題

(1) 開会挨拶

(2) 「大津波を生き抜いた子ども達から学ぶ」

岩手大学教員養成支援センター 特命教授 加藤 孔子

(3) 「黒潮町の取組から見た防災教育について」

黒潮町教育委員会 教育長 畦地 和也

(4) 意見交換

(5) 閉会

4. 議事要旨

加藤委員から、東日本大震災の大津波において子ども達全員が生き抜いた釜石小学校における防災教育について、下記の説明があった。

○釜石小学校の防災教育には大まかに「津波防災安全マップ作り」、「下校時津波避難訓練」、「津波防災の授業」の3つがあり、それぞれの内容や具体例、有効性の要因についての説明。

○「ふるさとを好きになること」を意識した防災教育、「保護者の意識の醸成」、「行政との連携」、「教師の意識の醸成」、「地域を知ること」の重要性についての説明。

次に畦地委員から、南海トラフの巨大地震による最大震度が7、最大津波高が34.4mという大変厳しい数字が推計された黒潮町における防災教育について、下記の説明があった。

○黒潮町独自の防災教育プログラムを開発し、その中で自然の恵みと災いの二面性を教えていること。

○子どもの学びや行動が、地域の大人への大きな啓発や避難行動につながることを。

○非認知能力を育てるために防災教育が有効であること。

○防災教育の課題として「学校と地域を結ぶ中間組織の存在」「防災教育の時間確保のためのクロスカリキュラムの実施」「教員の異動に関わらず継続させること」があること。

その後、各委員からいただいた主なご意見は以下のとおり。

- 防災教育の存在価値をアピール又は確立するために、長期的な視野あるいは広域的な視野での防災教育の効果検証が重要だと考える。
- 防災教育を「AだけでなくBも」と、もう少し広くとらえることが大切だと感じた。例えば、「子供だけでなく大人にも影響があること」、「自分が助かるだけでなく他人も助けること」、「災いだけでなく、恵みも一緒に教えること」、「狭い意味での認知能力だけでなく、非認知能力も育むこと」。
- 今後、学校の数が減少すると予測される中で、地域でどのように防災教育を実施していくべきか考えなければならない。
- 学校には教科以外にも、環境教育やオリンピック教育のような〇〇教育が150個ぐらいあり、「151個目に防災教育と言われても困る」というのが現場の感覚ではないかと思う。そのため、防災教育は教養教育やキャリア教育にもなる、学級経営のために利用できる、というように、先生が実施したいことに絡めて推奨することが大切だと考える。
- 結果を褒めるよりもプロセスを褒めた子供たちの方が成長するというエビデンスが世界的にも出されている。防災教育は、プロセスを褒めるという教育の在り方の転換、そして、その練習にも活用できると考える。
- 東日本大震災は偶然にも建物を壊さない周波数の地震であり、建物が崩壊しなかったので避難だけを考えることができた。今後の南海トラフ地震などにおいても同様の揺れ方とは限らず、倒壊したがいれきの下から助けを求められているのに、それを無視して津波から逃げなくてはならないという事態が起こりうることを認識しておかなければならない。
- 普段の防災教育の担い手として、防災ボランティアの方々に仕事として学校と地域の間に入ってもらうというアイデアがあるのではないか。
- 新しい避難に関する情報など、最新の防災情報を適宜、学校教育の場に反映するようにしてほしい。
- 学校ごとに熱意の差はすごく大きいと感じており、どうやって釜石市や黒潮町のような好循環を生み出す雰囲気を作っていくのが重要だと考える。2つの事例の要素分析を、学校以外の周囲の要素まで含めて、きちんと実施したい。
- 良い雰囲気をつくるため、マスメディアやインターネット企業も含めて、何ができるのかを考えたい。
- 学校教育の最大の目的は、自分の人生をより良い人生にできる人間を、そして社会を支えていく人間を育てること。そのために、防災教育は非常に有効だと考える。

そして、赤澤副大臣から「地域の災害リスクなどの知識を教え、それに基づく避難訓練を実践することによって、災害発生時に自分の命を必ず守り、さらに周りの人の命も救うことを、どの市町村でも実現したい」「防災教育は命を守ることに加えて、主体性や自己肯定感、人間力などの非認知能力を鍛えることができるという点も重要である」などの考えが述べられた。